

DAIDO CAMPUS

大同工大キャンパス

No.52 2005.4

巻頭特集 / 大同工大の「愛・地球博」参加
西堀研究室ロボット、佐藤研究室風力発電シンポジウムほか

平成18年度新学科設立
ロボティクス学科、名古屋地区で初めて設立
ユニークで精力的卒研

学生の活躍：名岐駅伝、吹奏楽団 / 卒業式

元気印の卒業生 七宗町新町長 井戸敬三氏

ひそかなグルメスポット お好み焼き(煎)

トコトン先生大活躍 / 入学式 /
就職トピックス / 開かれた大学 / 巻末トピックス



「自然の叡智」をテーマに、3月25日から開幕した2005年国際博覧会「愛・地球博」に、大同工大も参加しています。

情報機械システム工学科 西堀賢司教授が、からくりサーカスロボットとサッカーロボットの実演と展示



キッコロが空中ブランコをやって人気のからくりサーカスロボット

展示会場は、モリゾー・キッコロメッセ内に出版される『モノづくりランド シンフォニア』。「西堀ロボティクス・ラボ」が株式会社ナガラとの共同開発による「からくりサーカスロボット」と「サッカーロボット」を出展している。このパビリオンは、名古屋商工会議所主催で、キラリと光る技術を持った中部地域の企業・団体が、各ゾーン・コーナーで魅力的なコンテンツ(展示物、ワークショップなど)を創造・出展するところ。先生と学生たちが訪れる人々に、キッコロが空中ブランコをするからくりサーカスや、サッカーロボットの鮮やかなシュートの実演を楽しんでもらっている。



日本宇宙少年団 名古屋支部に協力、 「ブーメラン教室」開催

4月21日(木)から長久手会場の『地球市民村』で開催されている「れあるファミリースクール」で、日本宇宙少年団名古屋支部による「ブーメラン教室」が開催されますが、本学は、宇宙少年団に協力するかたちでこの教室に参加する!

なお愛・地球博開幕前の2月21日、本学で日本宇宙少年団名古屋支部の「ブーメラン教室」が開かれ、盛況のうちに終わった。そのときと同様に、「ブーメラン紙飛行機」と「ブーメラン」、「竹とんぼ」を作る。



万博開催前に本学で開かれた「ブーメラン教室」

電気電子工学科 佐藤義久教授の 風力発電シンポジウム

8月26日金曜日、長久手会場のEXPOホールで、佐藤先生が中心となって、『環境調和型の都市型風力発電システムの実用化について』と題し、地球温暖化防止と環境保全のため、自然エネルギーシステムの実用化と将来の展望について考える。そのほか、インターネットによるライブ映像で、本学がキャンパスに設置している風力発電システムの現状も紹介する。



大同工大正門に4基設置された都市型風力発電装置



本学卒業生 児島教諭(刈谷工業高校)による説明



東海地区で初! 平成18年度ロボティクス学科を新設。 中日新聞も大きく報道



愛・地球博で大人気となっているもののひとつがロボット。従来の産業用ロボットに加えて、人と生活をともにするパートナーとして、また介護・災害対策にも可能性が見込めるとして、近年急速に各社が開発競争にしのぎを削っている。

大同工業大学では、従来ロボット研究やロボット技術者教育が別々の学科で行われていて、ともすれば人材育成がスムーズにいったいない現状に注目。ロボットのハードからソフト、そして人文科学の分野まで、すべてが学べる学科の設置が急務として、平成18年度からロボティクス学科の新設に踏み切った。

教員はもちろん、最新の研究・教育設備を備えた新学科にするため、新たに6階建てのロボティクス学科棟の建設に着手。来年4月のロボティクス学科発足時には、その偉容が姿を現す。

本学のロボティクス学科新設は、中日新聞が「東海地区では初」と報道した。

都市環境デザイン学科 大東研究室、 名古屋工大と一緒に堀川の土壌調査に挑む

名古屋市内を流れる堀川に、ゴムボートで組んだ川底の土壌を取り上げるためのいかだが浮かんだ。長い筒を川底に深く突き刺し、筒に入った川底の汚泥を採取して、その汚れを調べる研究で、挑戦したのは大東研究室の那須貴範君(01C)。名古屋工大との共同研究として、大東先生と二人三脚で取り組んだ。



堀川にこぎ出した汚泥採取用即席いかだ



(右から2人目 大東先生、中央 那須君)

建築学科卒研発表、 研究成果のポスターセッションを同時開催！

平成16年度の建築学科の卒研発表は、2月10日ゴビーホールで盛大に開催された。しかし今回の卒研発表の目玉は、全発表者の研究成果を大きなパネルにまとめ、B棟1階の学生ホールに一堂に展示して、訪れる誰でも自由に成果を見学し、それぞれの研究発表者から説明を受けることができるという意欲的な卒研発表としたこと。講義室でただ発表するだけで終わらず、研究成果を広く公開したことは、新しい卒研発表スタイルを構築した画期的な試みである。



研究発表ポスターパネル



第17回名岐駅伝、健闘むなしく27位、惜しくもシード権逃がす。

2月6日、大垣市役所前スタート、名古屋中日新聞社前をゴールとする第17回名岐駅伝競走大会で、我が大同工大陸上競技部は、一般の部で27位(参加32チーム)となり、惜しくもシード権を手放した。

レースは、花の1区からアフリカ出身選手で固めた実業団チームがハイペースで飛ばす。大同工大1区奥野選手(02C)は激走するも24位で2区道家選手(03J)へ。順位を1つあげて3区は荻野選手(03E)。健闘するも4区にはたすきが繋がらず、エース片桐選手は白たすきの繰上げスタートに。12月の東海学生駅伝では快走を見せた片桐選手も1週間前

の故障が響いて本来の走りができなかった。5区の初出場岩戸選手(03B)も力を発揮できないまま6区アンカー南選手(02M)へ。しかしさすがにアンカー、順位を上げて結局27位でゴール。出迎えた澤岡学長は、全選手と監督、そして教養部水野先生をチーフとするサポートの教職員の労をねぎらった。「学長がお出迎え」と中日新聞も報じた。

大会前から、走って見なければわからないエースの故障が危惧されたが、そこは全員でカバー。この順位は大健闘といえる。来年こそは実力でシード権奪還が期待される。



ゴールイン後 陸上部全員集合!



ゴールインする
アンカー南選手(02M)

吹奏楽団第19回定期演奏会、賑やかに力強く見事な演奏を披露。

3月5日、吹奏楽団の第19回定期演奏会が、名古屋市中区の名古屋市青少年文化センター・アートピアホールで賑やかに開催された。演奏会は3部構成で、1部「シンフォニックステージ」では『威風堂々』や『シンフォニックダンス』等を、2部の「企画ステージ」では『ジブリNIGHT』と称してジブリ映画の名曲の数々を、3部「ポップスステージ」ではディズニー映画「ターザン」から『トゥ・ワールズ』、映画「サウンド オブ ミュージック」から『私のお気に入り』などを演奏し大きな拍手を浴びた。

平成16年度も各地で演奏し、好評を博す。

吹奏楽団には、定期演奏会の演奏以外に、卒業式、入学式、大学祭をはじめ多くの大学行事と、学外・地域からも毎年演奏依頼がある。昨年秋以降でも南区区民まつり、ゆたか障害者労働福祉センターまつりなどで演奏し好評を博した。



第2部企画ステージ



元気一杯の熱演奏

建築学科 光田研究室、韓国の大学と 共同研究発表交流会挙行!

建築学科光田先生とその研究室の学生5人が、韓国又松大学(WOOSONG UNIVERSITY)の朴 商珍教授とその研究室の学生たちとの日韓交流会を3日間にわたって行った。

2月24日来日した又松大学の先生と学生たちは、25日のにおい研究交流会に出席した後、26日から27日まで、大同工大におい研究室見学や高山1泊2日旅行などで交流を深めた。

参加した本学の姉川哲也、後藤陽一、佐野彰則、根津洋一郎、中村太樹(いずれも01A)の学生諸君は、韓国の学生を通じて韓国の文化に触れたこと、自分たちの英語力を伸ばす必要性を痛感したこと、何よりも日韓交流ができて嬉しかったことなどを感想文にまとめていた。



高山1泊2日の旅行での交流スナップ



建築学科 田畑雅行君、 中京テレビWAKUWAKUで 取材され出演。



2月10日放送の中京テレビの人気番組、真鍋かをりさんがレポーターを務めるWAKUWAKUで、建築学科田畑雅行君(01A)の建築廃材を使った画期的なチェアのデザインと製作のプロセスが紹介された。

塩化ビニールはリサイクルが難しく、リサイクル商品がまだ市場に出回っていないなかで、笠嶋先生の指導をうけ、屋根がついたデザインのチェアを考案し、それが採用されて実際に製作された。このチェアは、名古屋市の万博応援イベント会場で紹介されたし、愛・地球博会場にも今後設置される予定。田畑君は、真鍋かをりさんと競演するかたちでテレビ出演、研究室仲間から冷やかされていた。



平成16年度学位記授与式

総勢761名巣立つ

平成16年度の学位記授与式が3月22日石井記念体育館で挙行された。学部生715名が卒業、大学院修士課程44名、博士課程1名、委託生1名がそれぞれ修了、総勢761名が大同工大を巣立っていった。

学長、卒業・修了生にエール(学長告辞の要旨)

澤岡昭学長はまず、卒業生、修了生を心から祝福し、そのご父母や関係者に敬意を表し、つづいて大同工業大学の沿革と、今年で大学創立40周年になり、2万名の卒業生を世に送り出したこと、時代の要請に従って学科の改組を進めてきたことを述べた。次に自身の高校時代から現代までの数十年を振り返り、生物学者になる夢や宇宙開発との出会いといったエピソードを交え、「人生は分からないものだが、考えていることや気持ちは20歳のころとほとんど変わらない」とこと、そして「これからの時代どうなるのかは想像もつかないが、外国で仕事することが当たり前になり、仕事の内容も変わる。柔軟な対応が必要である。大学での友人こそ一生頼りになる友人であるし、大同工大は永遠に皆さんのふるさとである」とエールを贈った。最後に巣立って行く学生たちが、健康に気をつけ、思う存分働き、元気で愉快な人生を送ることを願って告辞を終えた。



卒業式表彰された卒業・修了生たち

1. 学部生「学長賞」(1)

学業で特に優秀な実績を挙げた学生たち

林 慶彦(01M・大垣南)	石川 裕次(01D・安城南)
東野 隆光(01M・彦根工業)	稲垣 圭吾(01D・静岡・二保)
小久保純一(01J・愛知・惟信)	市橋 繭(01A・稲沢東)
山口 剛(01J・高山工業)	戸川 晃希(01A・新城東)
田辺 幸典(01E・大垣工業)	今井 野衣(01C・掛川工業)
谷口 普崇(01E・中濃西)	森井 勝勸(01C・伏見工業)

2. 学部生「学長賞」(2)

部活・社会活動で活躍した学生たち

- 片桐 雅樹(01E・関商工): 陸上部。
 - 長距離選手として名岐駅伝、東海大学駅伝など駅伝で活躍。
- 小島 吉幸(01D・大同): 公式野球部。
 - 平成15年愛知大学野球春季リーグ4部優勝に導きMVPを獲得。
- 杉浦 貴昭(01D・豊橋ろう): 手話クラブ結成。
 - 様々な触発を同級生に与え、テレビの取材で大学の名を広めた。

3. 大学院生「学長賞」

修士論文が優秀だった大学院生たち

宮崎 彰也(03MM)	木村 直樹(03EM)
吉川 裕介(03MM)	阪根 一輝(03BM)
岸野 光洋(03EM)	鈴木 雄彦(03BM)

4. 「三好賞」

- 宇野 彰紘(01M・大垣工業)
 - 陸上部での活躍と貢献
- 高橋 佑介(01J・藤枝北)
 - サッカーロボット研究で主導的役割
- 松本 駿(01E・小牧工業)
 - 卒業研究の取組と成果が特に優秀
- 島 健治(01A・岐阜・吉城)
 - 成績が特に優秀で人望がひと際あつい
- 目片 孝規(01C・大同工業大学大学院)
 - 3年次編入し2年間社会人学生として優秀な成績
- 佐宗 享(01D・愛知・東郷)
 - 成績優秀であり、聴覚障害学生を自ら手話を学んで援助



卒業パーティでの学長による「大エール!」

新町長さんは
大同工大の80年度生
岐阜県加茂郡七宗町長に初当選



町長室の執務席で若くして初々しい町長

井戸敬二氏

1984年3月、工学部建設工学科土木工学専攻(当時)卒業



指導教授だった舟渡先生が激励

悩んだ末の決断、慌しい出馬でも見事初当選!

「一時は断念しました。しかし若さと行動力で七宗町を変えてほしいという声に押されて出馬を決意しました」。何とそれが町長選挙告示日3月15日の13日前。戦う相手の候補者は既に2月に出馬を表明していた。出遅れだった。立候補の説明会はすでに終わっていた。その上告示日直前の3月10日に最愛の父が他界、12日が告別式というとてもない慌しさだった。

しかし結果は、その若さと行動力に期待を集め3月20日、見事町長初当選を果たした。

家業「七宗建設」を継ぐため、大同工大の門をたたいた。

生まれも育ちも七宗町。家は父が「七宗建設」を経営していた。家業を継ぐため大同工大へ。1年生の10月まで、毎朝5時30分の電車で通学した。しかしあまりの遠さについて名古屋市、豊田本町で下宿。6畳一間の共同トイレ、風呂なしの部屋。「貧乏でしたが、近所にいる学友がいつも10人くらい集まって楽しかった」そうだ。卒業研究は舟渡悦夫先生の研究室。テーマは都市交通工学だった。4年生のときは毎日学校へ。それまでより一番多く通学したとか。卒業後、6年間大脇建設(株)で修行し、28歳で家業に入って専務として父を支えた。

過疎の町には多くの課題山積。若さと行動力で挑戦!

「困難なことは分かっています。町民や若者にはいいアイデアがあります。対話を重ねることで吸い上げ実行したい」と目を輝かす。平成15年から町会議員を務めていて、若者たちとの対話を進めていた。その経験と実績、そして人々との親交がある。

お茶、木工、日本最古の石、飛水と日本一の珍しいポットホール(甌穴;激流が固い岩を壺状に削り取った穴)、伝説など、資源は決して少なくない。「魅力ある町にして人々に定着してほしい」と抱負を語る。「町村合併、財政、町興しといった難しい課題を、若さと行動力で頑張れよ」と、取材に同行したかつての指導教授、舟渡先生もエールを贈っていた。

お好み焼き・ モンジャ焼き「煎」(Jon)



オーナー 中原氏

こだわりのお好み焼き

ところは大同工大からすぐ東、スーパー・ユニーの西隣。店内は4人席が3つにカウンター席が8席とこじんまり。マスターは中原成萬氏、35歳。柴田生まれの柴田育ち。「うちの自慢はお好み焼きとモンジャ焼き」と言い切る。聞けば、お好み焼きといっても味は千差万別、いかに特徴を出せるかが勝負だとか。「新しい味を求めて試行錯誤しています。これを怠ると後で困ったことになる」そうだ。



高校の先生から お好み焼き店の店主へ

大学を卒業して知多の高校の社会科の教諭となった。3年後父親が営んでいた産業廃棄物とプラスチックの再生工場が火災で全焼、高校の教師を続けられなくなった。何とか工場を再建しようと頑張ったが、ついに閉鎖に追い込まれた。そして工場火災のころお姉さんが開店しようとしていたお好み焼き店を自分でやることになった。

4月に新しい味で勝負します

試行錯誤の末に新しいお好み焼きを4月から店に出す。「これは自分でも新しい味だと多少自信もあります」とやや控えめながら闘志を燃やしている。かつて工場を経営していた父親と母親と3人で店を切り盛りする。

「お客さんは近所の顔見知りほとんど。昼のランチは南区のどこにもない味のはずです。夜でも値段は変わりません」とのこと。「大同工大の学生さんに夜アルバイトに来てもらっています。頑張ってくれています」とは、少し我々に気を遣ってくれたのかも知れない。



人気のランチ

打ち上げが成功し喜びにわく屋敷衛一(左)と
澤岡昭学(右)が打ち上げ成功を祝う。打ち上げ成功を祝う。打ち上げ成功を祝う。

H2A成功



土壇場 意地見せる 信じた底力、関係者安堵

打ち上げ成功を祝う。打ち上げ成功を祝う。打ち上げ成功を祝う。

JAXA 製造の技術者ら拍手

打ち上げ成功を祝う。打ち上げ成功を祝う。打ち上げ成功を祝う。

澤岡学長にマスコミ取材次々! 日本経済新聞にNHKテレビ、 東海ラジオなど

本学の澤岡昭学学長は、JAXA(宇宙航空開発機構)の技術参与も務める多忙人であることは、マスコミもよく知るところ。2月26日のH2Aロケット7号機の打ち上げ成功もあって、マスコミ取材が続いた。

まず1月に日本経済新聞社が、学長の宇宙飛行士への夢を取材に訪れ、全国版の記事になった。しかもその内容が同社出版の「はじけるNAGOYA流」という書物で、「名古屋元氣人」の一人として取り上げられた。またH2Aロケット7号機打ち上げ当日は、NHKテレビのニュースで、打ち上げ成功を喜ぶJAXAの一員として放送されたし、その模様がインタビューつきで翌日の毎日新聞にも掲載された。更に東海ラジオ朝の人気番組「小島一宏モーニングあいランド」でも、小島氏の電話インタビューに答えるかたちで生出演した。

澤岡学長は、学長として本学を引っ張る一方、日本の宇宙開発でも辣腕を振る「超多忙宇宙人!」である。



情報学科 横山弥生助教授、 タイの国立大学との共同展覧会に作品出展

横山先生の母校、武蔵野美術大学とタイのシルパコーン大学との作品交流展が、3月21日から31日まで、タイ・バンコクの国立シルパコーン大学で開催され、横山先生は、CG作家として8点の作品を出展した。油絵、彫刻、デザインなどあらゆるジャンルの同僚30人が出展したうちで、CG作品は先生だけの作品しかなく、同大学の学生たちの注目を集めていた。なお先生は、出展作8点のうち4点を同大学へ寄贈した。



大学ギャラリー



横山先生の展覧作品

都市環境デザイン学科 大東憲二 教授、 第2回レスポンスブル・ケア 愛知地区地域対話で講演

3月10日、名古屋で開催された第2回レスポンスブル・ケア愛知地区対話で、大東先生が「街守(まちもり)としての大学の役割」と題して講演した。

環境・安全・健康を守る化学業界の自主管理活動であるレスポンスブル・ケア、その愛知地区では18社21事業所が加盟し、この日は第2回の活動報告会だった。大東先生は、本学の立地条件から名古屋臨海東部地域の大手企業、中小企業、住民、行政機関等と連携して、地域の環境を向上させるために展開しているプロジェクトを実績として紹介。今後も街守(まちもり)として活動していきたいと決意を述べた。

この対話には、都市環境デザイン学科の舟渡悦夫教授も参加して関係者に対話を深め、大同工大への期待を高める地域対話となった。



建築学科 光田恵 助教授、第4回におい研究交流会開催

(産学連携共同センター 臭気評価・制御ラボ代表)



2月25日、本学A棟交流室で、第4回におい研究交流会が開催された。この研究交流会は、松下電器、東京電力はじめ一流民間企業や病院、各種研究開発センター、それに韓国の大学も参加する日本では有数の研究交流会。

産学連携共同センターとその臭気評価・制御ラボ代表の光田先生が中心となって開く研究交流会で、今年は4回目。

本学の臭気評価・制御ラボの研究発表はじめ、韓国のおい研究紹介、山口大学による臭気測定における制度管理などが報告され、活発な議論が交わされ、有意義な研究交流会となった。

教員の新刊書出版

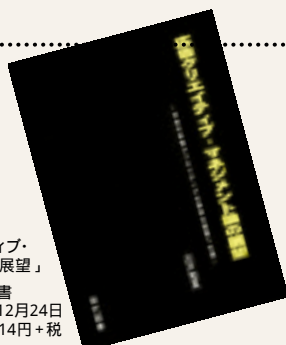
電気電子工学科 堀尾吉己 教授、大著出版に参加

1991年に出版された「表面科学の基礎と応用」が好評を博し、その後15年の間に表面・界面に関する科学・技術の進歩に伴ない表面・界面の分析、測定、評価などの基礎分野や最先端の精密機械、エレクトロニクス、ナノ材料などの応用分野が長足の進歩をなし、再版の出版が望まれていた。今回出版された本は基礎編と応用編に分けて工学大系に相応しい編集がなされた本である。

堀尾先生は、第4章 表面・界面の電子状態およびエネルギー 第6節 表面ダンダリングボンド pp.156-160および第17章 汎用的分析システムの応用例 第7節 反射高速電子回折(RHEED) pp.738-741を担当している。



本多健一 著
「表面・界面工学大系」
上巻 基礎編(共著)
フジ・テクノシステム
発行日 / 2005年3月19日
定 価 / 本体54,600円+税



川戸和英 著
「広告クリエイティブ・
マネジメント論の展望」
株式会社 現代図書
発行日 / 2004年12月24日
定 価 / 本体1714円+税

情報学科 川戸和英 教授、単著初出版

出版したのは「広告クリエイティブ・マネジメント論の展望」。広告代理店30年の広告づくりの体験をもとに、バブル経済崩壊以降の広告クリエイティブの停滞状況を報告、分析し、広告クリエイティブに「管理」ではなく「環境づくり」というマネジメントが必要であることを、具体的な提言とともに提起する。



平成17年度入学式挙行。 総勢797名が入学、新学生生活スタート

平成17年度の入学生は、学部生工学部559名、情報学部200名、大学院工学研究科修士課程33名、博士課程2名、情報学研究科修士課程1名、委託生2名。総計797名が大同工業大学の門をくぐった。

入学者を心から歓迎(学長告辞の要旨)

まず入学者とその関係者に心から祝意と敬意を述べてから、大同工業大学の創立から今までを説明した。福沢諭吉の娘婿で中部産業の礎を築いた福沢桃介翁が構想し、その遺志を継いだ下出義雄が1939年に設立してから今年で66年目、1964年に大学となってから41年目を迎え、工学部から2万名の卒業生を世に送り出したこと、来年には初めて情報学部が卒業生を送り出すことを紹介した。

続いて大同工業大学は卒業するのが厳しいが、最初が肝心、自覚を持って勉強とクラブ活動や学内行事に積極的に参加し、エキサイティングな学生生活を送るよう勧め、そのためにも眠っている遺伝子DNAを目覚めさせることで、毎日楽しく充実させることができると諭した。

そして、「人生で好きなことに自由に時間をかけられる最後のチャンスである学生時代にこそ自分のやりたいことを見つけて欲しい、何事もまず考え思うことを存分にやれば、人生も思いもかけぬ方向へ展開する」と入学生たちにエールを贈った。



新教員紹介

情報学部 情報学科 メディアコミュニケーションコース

教授：川戸 和英 Kawato, Kazuhide



京都府出身の関西人で、広告のプロ。広告代理店に30年間勤務し、著名な企業のテレビ、ラジオCM、PR誌等の制作にあたった。現在、日本広報学会に理事・個別研究会主査として所属し、広告や広報、情報戦略を研究している。本学には2002年4月からエクステンションセンターの副センター長として勤務。大学のパンフレットや広告などを手がけた。2004年11月に情報学科教授に転進。これまでの実績をもとに、メディア産業論、情報マーケティングなどの授業を担当。教授であるかたわら情報学科の就職指導も担当しており、学生のよきアドバイザーでもある。現在は、名古屋に単身赴任。普段の会話は標準語で、名古屋弁もたまに。熱くなると関西弁が飛び出すところは、やはり関西人である。

工学部 電気電子工学科

講師：大澤 文明 Osawa, Humiaki



島根県松江市出身。大学進学とともに上京、独立行政法人 雇用・能力開発機構に就職後は奈良に勤務。その後、千葉(幕張)、横浜、石川(能登)に転勤。名古屋での生活は初めてとのこと。本学教員となったきっかけは、電気学会誌の教員公募。研究分野は、電子制御、ロボティクス・メカトロニクス。人間の行う作業をロボットが行うということをテーマとし、洗濯物の形状を画像認識し、折りたたんだりするアーム型ロボットの制御を研究。このユニークな研究を始めたのは、多くの人が歩行ロボットを研究しているため、人がやらないことをやりたかったから。本学では、主に電気電子工学実験を担当。趣味はサッカー観戦。イタリア、イギリス、スペインなど海外リーグが好きな一面も。

大同工大企業説明会開催! 日刊工業新聞も取材、 全国へ発信

新4年生の就職活動開始を告げる大同工大単独の企業説明会が、2月23日、名古屋国際会議場で開催された。一大学単独の企業説明会としては全国でも有数の規模を誇ると定評のある本学の企業説明会には、今年は240社が参加。学生たちが各企業ブースを訪れて、企業の採用担当者から熱心に企業説明を聞いていた。特に今年は情報学部学生が初めて就職活動を展開するとあって、大学側でも従来にも増して積極的な支援体制を引き、学生たちのフォローを展開した。

この企業説明会には、日刊工業新聞が取材に訪れ、翌日の同紙には「全国でも有数の規模で企業説明会開催」と全国に紹介された。

この名古屋会場に続いて、岐阜、浜松、四日市、そして今年から豊田でも企業説明会を開催。それぞれの会場で企業と学生たちの熱心な対話が繰り広げられた。



平成16年度就職活動終了。 学部、大学院とも、就職希望者の 就職100%を達成!

景気指標が一部好転したと伝えられたなかで展開された大同工大の平成16年度の就職活動。確かに明るい兆しの中で前年度より内定獲得のペースがあり、12月には大学院の全専攻で100%を達成、学部生も3月中旬には100%に達して、「就職希望者内定率100%」を今年も達成した。

南区・魅力発見フェスティバル」に今年も参加！ 「学生の街づくり提案」と「サッカーロボット実演」で。

3月12日土曜日、名古屋市南区主催の「南区・魅力発見フェスティバル」に、今年も大同工大から2チームが参加した。

まず、建築学科の文部科学省平成16年度「現代GP」に採択された「工住混合地域の街並形成へのデザイン提案」事業から、「学生による地域工場への提案」図面・模型の展示とストリート・ファニチャー（塩ビのリサイクル素材を利用した学生のデザインによるベンチ）の展示が、会場のロビーを飾った。

もうひとつは、大同工大サッカーロボットチームによるサッカーロボットの実演。ロボットがボールを飛ばしてシュートするさまに、子供たちから歓声が上がっていた。



情報機械システム工学科 松浦章裕教授、 建築学科 萩原伸幸助教授、知多市の各種講座で奮闘！

まず萩原伸幸先生は、1月18日、知多市ふれあいプラザ大学連携講座で、「暮らしに役立つ知識を学ぶ・建物の仕組みと地震の揺れ」と題して、建築物の揺れ具合を、模型やPCシミュレーションによって分かりやすく解説。東海沖地震の可能性に関心が高い上に、スマトラ沖大地震の直後だっただけに、参加者は真剣に先生の講義に聞き入り、質問者も多かった。



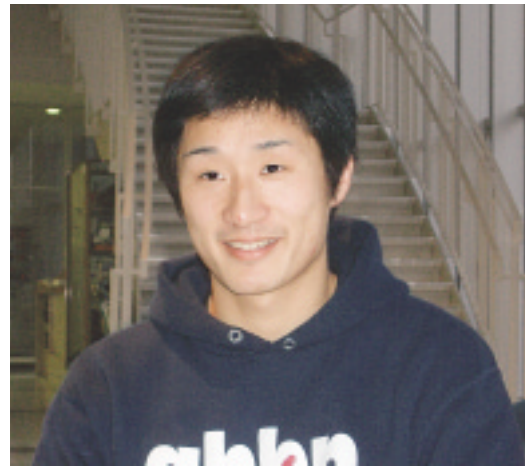
もう一人、松浦章裕先生は、1月19日、知多市教育委員会から依頼のあった生涯教育講習会で、講師を務めた。知多市勤労文化会館で、「生涯教育とものづくり」と題して、生涯ものづくりに取り組むための秘訣や考え方などを具体例を示しながら丁寧に指導した。



大同工大ハンドボール部第1期卒業生が 本場ドイツプロチームとマイナー契約!!

都市環境デザイン学科を2004年に卒業した00Cの仲井友崇さん(24歳)が、ハンドボールの本場ドイツのプロチームでプレーすることになった! 本学を卒業後、教員免許取得をめざし勉強する傍ら、社会人の大同特殊鋼チームで練習生としてトレーニングを積んだ。2005年2月のドイツ武者修行。現地でプロチームの練習に参加したとき、ドイツハンドボール1部リーグに所属する「HSG - デュッセルドルフ」を紹介され、3月に現地でプロテストを受け、見事合格、マイナー契約を結ぶことになった!

ハンドボールはドイツの国技で、その実力は世界トップクラス。世界一の夢舞台で1軍を目指す仲井さんの挑戦が始まった。頑張れ!



人事

退職 / H17.3.31付

専任教職員

岩田 晃 / 情報学部 情報学科 教授
山本 武信 / 情報学部 情報学科 教授
近藤 芳孝 / 工学部 電気電子工学科 特任教員

事務職員

神谷七五三 / 大学事務部 授業開発センター事務局 兼 産学連携共同研究センターリエゾンオフィス

就任 / H17.4.1付

澤岡 昭 / 大同工業大学 学長に任命する
(H17.4.1~H20.3.31)
井上 茂樹 / 大同工業大学 副学長に任命する
(H17.4.1~H20.3.31)
和田 均 / 大同工業大学 副学長に任命する
(H17.4.1~H20.3.31)

採用 / H17.4.1付

専任教職員

大澤 文明 / 工学部 電気電子工学科講師
今井 英夫 / 教養部 数学教室特任教員
(任期:H17.4.1~H18.3.31)
岩田 晃 / 情報学部 情報学科特任教員
(任期:H17.4.1~H18.3.31)

昇任 / H17.4.1付

専任教職員

大嶋 和彦 / 工学部 情報機械システム工学科教授
成田淳一郎 / 教養部 数学教室教授
梅田 礼子 / 教養部 外国語教室助教授
松井 豊次 / 教養部 外国語教室助教授

昇任及び異動 / H17.4.1付

●法人本部・大学

専任事務職員

(部長昇格)

日比野忠雄 / 部長・大学事務部 入試室長 兼 経営企画本部主席部員
伊藤 幸生 / 部長・大学事務部 リエゾンオフィス長

大矢 郁夫 / 部長・教育・学生支援部長 兼 経営企画本部主席部員

(次長昇格)

児玉 鉄男 / 次長・教育・学生支援部 教務室長

(主査昇格)

小堺 貴夫 / 主査・大学事務部 キャリアセンター事務局

肥田 聡 / 主査・教育・学生支援部 教務室 兼 教務システム開発プロジェクト

異動 / H17.4.1付

専任事務職員

(部長)

大脇 通保 / 大学事務部 キャリアセンター事務局長
甲谷 昭一 / 大学事務部 キャリアセンター事務局 主席部員

榎田 浩 / 学生支援部 学習支援センター事務局長

(次長)

児玉 和雄 / 法人本部 通信・情報システム室主任部員 兼 大学事務部 情報教育センター事務局主任部員 兼 教育・支援部 教務システム開発プロジェクト主任部員

神谷登司雄 / 大学事務部 教育・学生支援部 学生室長

(課長)

長谷川 晃 / 大学事務部 入試室主任部員
片岡 智幸 / 大学事務部 エクステンションセンター事務局長 兼 広報室長
山内 洋至 / 大学事務部 教育・学生支援部 学生室主任部員[体育館管理人]
相原 美輝 / 大学事務部 教育・学生支援部 授業開発センター事務局長
天池 公一 / 大学事務部 教育・学生支援部 教務システム開発プロジェクトリーダー

(主査)

小林 満暁 / 大学事務部 エクステンションセンター事務局 兼 広報室
松尾 恵子 / 大学事務部 エクステンションセンター事務局 兼 広報室

(書記)

伊藤 雅士 / 大学事務部 キャリアセンター事務局
信濃 和彦 / 大学事務部 教育・学生支援部 教務室
高橋 昌弘 / 大学事務部 教育・学生支援部 教務室
安田 英基 / 大学事務部 教育・学生支援部 教務室 兼 教務システム開発プロジェクト
森川 博光 / 大学事務部 教育・学生支援部 学生室
松井 健之 / 法人本部 経理部 経理室 兼 教育・学生支援部 教務システム開発プロジェクト

委嘱 / H17.4.1付

役職者

(任期: H17.4.1~H17.9.30)

澤岡 昭 / (学長)工学部長 兼 情報学部長を委嘱する
和田 均 / 大学院研究科長 兼 大学院工学研究科長を委嘱する
岩間 尚文 / 大学院情報学研究科長 兼 大学院情報学研究科修士課程 情報学専攻専攻長を委嘱する
坂 貴 / 大学院工学研究科博士後期課程 材料・環境工学専攻専攻長 兼 工学部 電気電子工学科科長を委嘱する
杉浦 正勝 / キャリアセンター長を委嘱する
笠嶋 泰 / エクステンションセンター長 兼 工学部 建築学学科科長を委嘱する
堀 美知郎 / 産学連携共同研究センター長を委嘱する
棚橋 秀行 / キャリアセンター副センター長を委嘱する
横山 弥生 / エクステンションセンター副センター長を委嘱する
(任期: H17.4.1~H18.3.31)
曾我 静男 / 学長補佐を委嘱する
水澤 富作 / 学長補佐を委嘱する
小野 二郎 / (常務理事)学長付を委嘱する
川竹 敬三 / (理事・総務部長)学長付を委嘱する
太田 幸一 / (客員教授)学長付を委嘱する

編集後記

大同工大も平成17年度がスタートしました。中部国際空港が開港し、愛・地球博が開幕し、名古屋も活況を呈しているなか、新入生や新しい教員、職員を迎えて、新しい雰囲気が満ち満ちています。

本学は、どこよりも新たな時代が求める人材を育成するために、平成18年度に大胆な学科改組を行います。工学部では、ロボティクス学科を東海地区ではじめて新設し、機械工学科を機械工学と先端機械工学の2専攻に、建築学科を建築学と福祉環境の2専攻にそれぞれ改組。情報学部は、コンピュータサイエンス、情報ネットワーク、メディアデザインの3専攻に改組します。

また本誌を発行している社会交流エクステンションセンターも、エクステンションセンターに名称変更するとともに、広報室を新設しました。これを機に本学の広報できる情報づくりと情報発信に一層努力して、広報効果を高めたいと考えています。関係者各位のご協力を切にお願いする次第です。どんな情報や企画などを遠慮なくお寄せください。お待ちしております。



お詫び

前号第51号の最終16ページに誤りがありました。中国河海大学の学長・教授来学の記事で、出席した本学の先生の中で、正しくは木全博聖先生であるべきところ、渡邊慎一先生となっていました。両先生にはご迷惑をおかけいたしました。訂正してお詫び申し上げます。